

令和7年度 第2回 西新宿スマートシティ協議会 議事録 **【公開用】**

- 日時： ■ 2025年12月1日（月）11:00～12:00
- 開催方法： ■ オフライン・Web 併用
- 場所： ■ 東京都庁 第二本庁舎 10階 209会議室
- 出席者： 【協議会構成員】
- (敬称略) ■ 一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会
- 小田急電鉄株式会社
- KDDI株式会社
- 住友不動産株式会社
- 損害保険ジャパン株式会社
- 大成建設株式会社
- 東京ガス株式会社
- 東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社
- 独立行政法人都市再生機構
- NTTドコモビジネス株式会社
- 株式会社JTOWER
- 東京電力パワーグリッド株式会社
- ソフトバンク株式会社
- 楽天モバイル株式会社
- 東日本電信電話株式会社
- 株式会社角川アスキー総合研究所
- 株式会社ゾルテ
- 新宿区
- 東京都
- 議 題： 1. 開会の挨拶
2. 協議会参加者の紹介
3. 今年度の取組スケジュール
4. 令和7年度・第1回協議会の意見に対する対応方針
5. 各部会の活動成果報告
- 5-1.スマートサービス実装部会
- 5-2.広報・コミュニティ部会
- 5-3.データ利活用部会
6. 質疑応答および意見交換
7. 閉会の挨拶
- 資 料： 1. 第2回協議会資料

1. 開会の挨拶（事務局）

- 事務局よりあいさつ

2. 協議会参加者紹介（事務局）

- 協議会参加者の紹介
- 資料のとおり説明

3. 今年度の取組スケジュール（事務局）

- 資料のとおり説明

4. 令和7年・第1回協議会の意見に対する対応

- 資料のとおり説明

5. 各部会の進捗報告

1.1 スマートサービス実装部会

- 資料のとおり説明

1.2 広報・コミュニティ部会

- 資料のとおり説明

1.3 データ利活用部会

- 資料のとおり説明

6. 質疑応答及び意見交換

- 質疑応答及び意見交換

—以下意見交換内容—

（発言者 A）

- スマートサービス実装部会の取組について、西新宿再整備に関する検討会でデジタルツインを活用しているが、大変有益である。有識者からの質問に対して、従来のアナログだと次回の会議対応となっていたが、デジタルツインだとリアルタイムに検討案を確認でき、本質的な議論が可能。
- また、デジタル技術であるため、記録もしっかり取りながら進められる点も利点だと思う。

（発言者 B）

- 自動運転の社会実装には費用がかかるため、実施体制の検討が必要である。自動運転の場合、事業収益性ととも運行体制における責任関係も変化することから、幅広い観点でこの

地域に自動運転車を走らせる意義について、部会等で関係者と共に検討できると良いと思う。

- 全国各地で自動運転車の実証を行っているが、ベストな実装体制を導き出せたところはなく、各地域において体制を検討している状態である。

(発言者 C)

- オープンスペース利活用について、SHIBUYA CREATIVE JUNCTION とはサービス内容で近いところがあるため、継続的に協議している。取組の中で課題として感じているのは、イベントスペースの管理企業は公開できる情報が限られており、公開空地部分であってもその情報をオープンにすることは難しいケースがある。そのようなケースについては協議会として取り組んでいければと思う。

(発言者 D)

- 新宿中央公園でキャンドルナイトを今年度も実施した。昨年までは 12 月に 2 日間実施していたが、今年は 1 カ月前倒して 1 日開催とした。寒さが厳しくない時期だったこともあり、前年を超える参加者数で盛況であった。地域でイルミネーションが施され、人が多かったことや、周辺施設の集客も多く、SNS 等の広報・告知が結果を結びつきつつある。

(発言者 E)

- 西新宿でイベントなどの各取組の認知度が上がり、賑わいが創出されることはいいことだと思うが、西新宿エリアの方向性の発信をもっと強化するとよいと思う。メディアとしても取り上げやすいのではないか。

(発言者 F)

- データ活用部会について、省エネに関するアンケートを数年間実施してきて、協力していただけるビルが増えてきた。
- 今回はビル管理者も関心あるアンケートであったようで、比較的協力を得られたアンケートとなった。
- 一方で建物管理者の省エネ施策はテナントビルという建付けから限界がある。テナント・執務者レベルでの自発的省エネの取組が必要で、こちらをデジタルでどう啓発するかが重要だと考えている。

(発言者 G)

- 西新宿イベントエリアに防災スポット情報としてスマートポールのサービス紹介を行っている。有事・平常時の情報を組み合わせて利用がより進むといい。

(発言者 H)

- イベント開催時及びイベント実施後 1 カ月間、人流計測を行った。GPS データも利用できるが高さ方向が検知できないため、この取組で人の垂直方向の移動も追えると良いと考えている。特に都庁は展望台には人が多いが、その後回遊していないのではないかと考えている。人流計測の手法が一つ増え、状況に応じた人流の計測方法を提示できるとよい。
- 計測終了したばかりなので、今後の協議会で何らかの結果を報告したい。

(発言者 I)

- サービスを実装する、という意味では、エリア限定で取り組んでしまうとユーザ目線では不便であるため、広域連携が必要。他方、コミュニティ形成という意味ではエリアが重要で、本協議会のコミュニティ施策は深化していると感じる。
- サービス・コミュニティ・プロモーションそれぞれどういう単位で考えていくか？を議論していくことが重要だと感じた。

(発言者 J)

- 地域の面的な取組が必要だと考えて取り組んできた。今後も、新宿で面的に取り組むとともに、効果的な発信をしていく。
- 公共空間の活用は法律的な制限があるが、何らかの形でできることが広がっていくとよい。何ができるか考えていきたい。

7. 閉会の挨拶（事務局）

■ 閉会の挨拶

(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)

今日も大変活発な意見をありがとうございました。この取組のコンセプトは、「つながるまち西新宿」であると改めて感じた。約 3000 人のコミュニティも成果である。また、小学生だけでなく中高生層も巻き込めると面白いのではないか。興味のある層は一定いると思われるので、そのなかでどう打ち出すか考えていきたい。

2030 年に向けて、都市空間整備でまちが変わっていく。まちの色々なところで取り組みが進み、まちが大きく変わるタイミングに様々な人を巻き込むことが重要なのではないか。

また、デジタルを使ってまちが変わる変化を記録していくと世界へ発信していくことも可能である。年度末の第 3 回の協議会に向け、引き続きよろしく願いいたします。

以 上